



## 世界はいつも貧血気味

～”赤”の他人からのおすそ分け～

献血によって集められた血液はどのように使われるかご存じですか？

例えば、がん治療の一つである化学療法では、副作用で患者さん自身の血液を作る能力が破壊されてしまい、この場合多量の輸血が必要になります。このように、献血は多くの患者さんの治療を支えています。

私はある日、若くしてがんで亡くなった方の記事を知りました。

その記事に掲載されていた、言葉を一部紹介します。

「私は献血をしてくれた人がいたおかげで、1年長く生きることができたの。愛する家族や友人、愛犬と過ごせたこの1年は、私にとってかけがえのないもので、人生で最も素晴らしい1年だった。」

当管内にも毎月移動献血車が来ます。あなたの少しの勇気で救われる命があります。詳細な日時は食品薬事班の担当者までお電話ください。

お問い合わせ先 (0226) 22-6615

## 高次脳機能障害家族交流会を開催しました！

平成29年12月12日(火) 気仙沼保健所で高次脳機能障害をお持ちの方(疑いのある方を含む)のご家族を対象とした高次脳機能障害家族交流会を開催いたしました。

高次脳機能障害とは、交通事故や脳卒中などにより脳が損傷されたことで生じる障害のことで、記憶力の低下など脳の機能に障害が起きます。外見からは分かりにくい「見えない障害」と言われ、周囲の理解を得にくく本人や家族の負担が大きくなることがあります。

今回の家族交流会では、勉強会と座談会を行い障害について理解を深め、息抜き場としてご家族同士が語り合い、つながりを深められた会となりました。

事故や病気後の気になる症状でお困りの場合や、家族交流会に興味のある方は、母子・障害班までお問い合わせください。

お問い合わせ先 (0226) 21-1356



## WARM BIZ (ウォームビズ)

～暖房時の室温を20℃で快適に過ごすライフスタイル～

ウォームビズとは、暖房のエネルギー消費を減らし、CO2の排出を削減する取り組みです。暖房器具使用時に室温設定を今までよりも下げるようにすれば、

CO2削減効果があるばかりでなく、電気代を効果的に節約することにつながります。

詳しくは環境省HPをチェック！日常生活のひと工夫で、寒い冬を快適に過ごしましょう。

※室温20℃は目安です。無理のない範囲で暖房の適切な使用をお願いします。

## コラク ユニバーサルツーリズム：旅に心のバリアフリーを

三陸有数の港町が連なるここ気仙沼地域は、雪が少なく、冬の味覚も楽しめるため、今のシーズン、旅行先に考えている方も多いと思われます。もちろん身体が不自由な方にも積極的に旅や外出を楽しみたい方は多く、気仙沼への旅を企画している方もおられるでしょう。

一般にバリアフリーというと物理的なバリアに目が行きがちですが、心のバリアが最も重要といわれています。

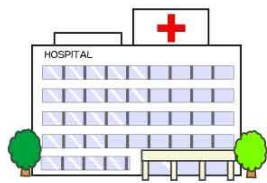
震災後の神戸においては、復興状況を一目見たいと、障害のある方や身体の不自由な高齢者の観光客も増えたそうですが、観光地すべてがバリアフリーに変わっていた訳ではなく、迎え入れる側で、そのような方も積極的に受け入れていこうという意識が高まり、PRしていったことのほうが大きかったそうです。

気仙沼でも、自慢のおもてなしの心で、いろいろな観光客のニーズに合わせた接客や介助などの工夫と対応により、楽しい思い出づくりをサポートしていきましょう。

# この人に聞きたい!

気仙沼市立病院事務部総務課  
副参事兼附属看護専門学校事務長  
佐藤 昭一さん

今月は昨年10月29日に  
移転開設した市立病院事務部  
総務課にお勤めの佐藤さん  
にお話を伺いました!



気仙沼市立病院は、明治5年に県立宮城病院（現東北大学付属病院）の気仙沼分局として開設されて以降、数々の変遷の後、昭和39年に公立気仙沼総合病院として気仙沼市田中184番地に移転新築し、平成29年10月までの53年間地域医療の拠点として救急医療をはじめ様々な医療を提供してきました。

しかし、建物の老朽化、度重なる増築による導線の複雑化、駐車場不足等により、平成22年8月に「気仙沼市立新病院建設事業基本構想・基本計画」を策定し、新病院の建替えに本格的に着手しました。

平成23年3月の東日本大震災では、直接の被害はなかったものの、周囲を水やがれきに覆われ孤立しましたが、自家発電装置があったことや関係者の努力により、診療を継続し災害拠点病院としての責任を果たすことができました。

このことを踏まえて、平成24年2月に「気仙沼市立新病院建設事業基本構想・基本計画（改訂版）」を策定し、宮城県からの支援も受け建設事業をスタートしました。

平成24年4月に設計業務に着手し、平成26年8月に工事契約を締結、同9月9日に着工式を挙行し新病院建設工事が本格的に始まりました。

工事は順調に進捗し当初の予定どおり平成29年4月30日に竣工し、医療機器、情報システム等の整備、職員のトレーニングを経て、平成29年10月29日に新病院を開設し入院患者を移送、11月2日から外来診療を開始しました。

新病院の概要については、旧病院と同じ18診療科、病床数340床（一般336床、感染症4床）で一般病床のうち48床は回復期リハビリテーション病床としております。

建物は鉄骨鉄筋コンクリート造（免震構造）地上6

階地下1階で、ヘリポートを併設しています。

また、駐車場も患者を含めた一般来院者用として、468台分を確保し旧病院での駐車場不足を解消しました。

医療設備は、リニアック（放射線治療装置）、MRI 2台（3.0T, 1.5T）、CT 2台（320列、80列）の他、最新の情報システム等を設置し、治療や検査において大きな成果が期待されていることから、今後も市民の皆様の健康と地域医療を守り、救急医療や先進医療を提供してまいります。

## 気仙沼圏域介護新入職員交流会が 開催されました!

平成29年12月8日（金）、気仙沼市錦町にある気仙沼市市民福祉センター「やすらぎ」を会場に、気仙沼圏域介護新入職員交流会が開催されました。

この交流会は、気仙沼市内の介護保険事業所の団体や行政機関などで組織する気仙沼圏域介護人材確保協議会が、事業所の枠を越えて新入職員の交流を図るため主催したもので、気仙沼圏域の介護保険事業所に就職した新人16名が参加しました。

交流会では、前半、クリスマスケーキの製作を通して交流を図り、その後、製作したクリスマスケーキを食べながら、お互いの近況報告やゲームなどで盛り上がり、大いに交流が図られました。



## 編集後記

新年第1号の「ふかひれ通信」をお届けしました。今月下旬は冷え込み、市内にも積雪が見られました。冬はまだ続きますので、お出かけの際の交通事故や転倒には気をつけてください。（次号は3月発行予定です。）

↓ご感想・ご意見等どしどしお寄せ下さい! ↓

担当：気仙沼保健福祉事務所広報委員会

電話：0226-22-6661

メール：fukahire@pref.miyagi.lg.jp